

国語問題研究協議会（主催：文化庁ほか）で 広島県の取組を報告します！



我が国の国語施策充実のため開催されている国語問題研究協議会において、広島県の取組（文学の分析・批評に焦点をあてた国語科の授業改善）を全国に向けて報告します。

1 行事名（主催者）

令和3年度国語問題研究協議会（文化庁、山梨県教育委員会、広島県教育委員会）

2 実施日時

令和3年11月24日（水） 13:00～17:00

※広島県の取組報告は、13:20～14:00

3 実施方法

オンライン

4 主な参加者

学校の国語科教育関係者、国語に関心のあるどなたでも



- 自己を認識する力
- 自分の人生を選択する力
- 表現する力

5 広島県の取組報告の概要

- 広島県では、「15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」として、「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」を設定しています。
- 国語科の文学を扱う授業において、生徒が作品を分析・批評しながら読むなどの読書体験を通して、文学を読む意味や価値に気付き、言葉にして語るような姿を目指すことにより、自己表現等の力を育んでいきたいと考えています。
- 中学校教科教育推進研修（国語）において、各市町の国語科指導の中核となる先生方が、文学の分析・批評をテーマとし、生徒たちが、自身の考えを表現し合う授業づくりを目指し、国語科の授業改革にチャレンジしています。
- 実際の文学の分析・批評の授業づくりにおいて、比較読みや並行読書などを行うことで、読書に対する興味関心をもたせるとともに、生徒の読書習慣の形成につなげていく等、広島県の取組について報告します。



令和3年度

国語問題研究協議会の御案内



テーマ：今求められるコミュニケーション

日時：令和3年11月24日（水）



午後1時～5時

開催方法：オンライン開催

主催：文化庁、山梨県教育委員会、広島県教育委員会

児童生徒、保護者、同僚とのコミュニケーションや生涯学習での
伝え合いを充実させるには、どんな工夫ができるでしょうか。
言葉の伝え方という視点から考えてみませんか。

「国語問題研究協議会」は、昭和25年以降、我が国の国語施策について、広く知っていただくともに、国語をめぐる諸問題を取り上げ、改善の方法等について研究協議し、国語に対する関心を持っていただくとともに国語施策の充実に資することを目的とし、毎年度、東西2か所の道府県で開催してきました。

令和3年度は、「今求められるコミュニケーション」をテーマに東日本地区・西日本地区合同で、初めてオンライン形式による開催とし、有識者による基調講演やシンポジウム、国語問題に関わる取組報告を実施します。

学校の国語科教育に携わる方をはじめ、国語に関心のあるどなたでも御参加いただけます。

参加申込方法

令和3年10月4日以降、文化庁ホームページにて参加申込を開始します。
開始前には各教育委員会等にも御案内いたします。

問合せ先

文化庁国語課 国語調査官（担当：町田）
電話 03-5253-4111（内線2842）
e-mail kokugo@mext.go.jp

プログラムの詳細は裏面を御覧ください。

テーマ別 ダイジェスト動画（11月公開予定）

- ・国語施策について
- ・「敬語の指針（答申）」
- ・「改定常用漢字表（答申）」
- ・「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」
- ・「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」

《 プログラム 》

プログラムは都合により変更になる場合がありますので予め御了承ください。

■ 基調講演：「誰でも学べるコミュニケーションの技術」

佐々木 圭一 氏

コピーライター、作詞家、上智大学非常勤講師、『伝え方が9割』著者。
株式会社ウゴカス代表として各地の学校で相手の視点に立った伝え方についての無料講演を実施している。

■ シンポジウム：今求められるコミュニケーション

進行役に川瀬眞由美氏を迎え、基調講演者の佐々木圭一氏を含む4名によるシンポジウム

佐々木 圭一 氏

川瀬 眞由美 氏

株式会社テレビ朝日アスク取締役、元テレビ朝日アナウンサー、
文化審議会国語分科会委員

滝浦 真人 氏

放送大学教授、『日本語は親しさを伝えられるか』著者、『日本語とコミュニケーション』共著者、
文化審議会国語分科会委員

善本 久子 氏

鎌倉女子大学教授、前東京都立白鷗高等学校・附属中学校統括校長、
文化審議会国語分科会委員

■ 取組報告

① 国語科の授業改善Project －「広島県の15歳の生徒に 身に付けておいてもらいたい力」を育む－

広島県教育委員会 義務教育指導課

② 「打ち言葉」に関する授業実践

山梨県立山梨高等学校 国語科

● 平川 理恵 広島県教育委員会教育長からのメッセージ

広島県では、「15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」として、「自己を認識する力」「自分の人生を選択する力」「表現する力」を設定し、とりわけ、「国語科」については、今年度より文学の分析・批評に焦点をあてた授業改善に取り組んでいるところです。全国の皆さまには、その挑戦の一端を御紹介できればと思います。

● 三井 孝夫 山梨県教育委員会教育長からのメッセージ

新しい学習指導要領では、日常生活や社会生活の中で生きて働く国語力を、確実に育成することが求められています。その一方で、私たちの生活にはICTが深く入り込み、コミュニケーションのあり方が問われてもいます。本県からは、その両面から自分たちの言語生活を考えた、高等学校での授業について報告します。

◇◇◇ タイムテーブル ◇◇◇

1:00	1:05	1:20	2:00	2:40	2:55	3:25	3:30	4:55	5:00
開会 挨拶	会 の説明	取組報告 ①	取組報告 ②	取組報告 まとめ	基調 講演	休 憩	シンポジウム	閉会 挨拶	